



平成21年度 入学式(4月7日)

本校は、今月22日に、第112回目の創立記念日を迎えます。学校設立の経緯等については、昨年4月発行のAcanthus第1号に述べましたので省略します（一高同窓会のホームページを参照してください）が、この機会に開校直後から教師や生徒たちが組織化に努めてきた「進修会」を取り上げてみます。「進修会」、「進修」について理解を深めて欲しいと思います。

ところで、Acanthus第11号で、「進修会」について「進修臨時発行 創立十周年記念録」の中で、『正科を筋骨とすれば、この会は血脈である』と述べ、学校生活に占める役割を高く評価していることを紹介しました。また、昨年6月の第3号で、『乱暴な言い方であるが、今の生徒会に似た“進修会”を発足させた』などとも記しました。

進修会々々則

- 第一条 本會ハ進修會ト稱シ茨城県中學校土浦分校内ニ置ク
- 第二条 本會ノ目的ハ徳智體三育ノ趣旨ニ基キ文武ノ學藝ヲ講究シ兼テ相互ノ交誼ヲ敦睦ニシ以テ當校ノ教養ヲ輔翼シ校風ヲ懿美ナラシムルニアリ
- 第三条 本會ハ左ノ三種ノ會員ヲ以テ組織ス
 - 一、特別會員 當校職員
 - 二、贊助員 嘗テ當校職員タリシモノニシテ本會ノ目的ヲ賛成スルモノ
 - 三、通常會員 當校生徒
- 第四条 本會ニ左ノ三部ヲ置ク
 - 一、雜誌部
 - 二、演說部
 - 三、體育部
- 第五条 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 當校主任教諭ヲ推ス
 - 副會長 一名 當校職員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス
 - 幹事 若干名 當校職員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス
 - 委員 若干名 通常會員中ヨリ之ヲ選定ス
 - 會計掛 一名 當校職員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス
 - 第六條 役員ノ職掌ヲ定ムル事左ノ如シ
 - 會長 本會ヲ總管ス
 - 副會長 會長ヲ輔佐ス
 - 幹事 各部ノ事務ヲ管理ス
 - 委員 會長并ニ各幹事ノ指揮ヲ受ケ各部ノ事務ヲ掌

師弟相親しむ学校生活と

進修会の発足

入学後自然に生徒の間の交友関係は深まり、授業が始まって10日も経たない4月30日には、「相寄つて親睦を計る」集まりがもたれた。分校創設当初は、教職員も生徒も少なく、学校生活が家族的な雰囲気満ちていたこともあって、親睦の輪は急速に生徒間に広まっていた。特に「師弟相親しむ相談じ、教室以外の知識を得るも以てその目的」とした茶話会がよく行われ、生徒の大きな楽しみの一つであったようである。そこでは、教員の訓諭・演説、生徒の余興などがあり、茶菓が出るころになると剣舞・詩吟・滑稽に打ち興じたという。一方、体育会もできて撃剣・柔道・野

球などが盛んに行われた。やがて一回生の中山庄一郎（後、土浦中学校教師）ら有志数人が茶話会・体育会を一つの組織に統合して「進修会」を発足させ、会則も整えて、明治30年12月（31年説もある）に発会式を挙行した。

進修という語は、「易経」の『君子進徳修業』に採ったものである。発会に当たって、畑分校主任は、本会は航海者の羅針盤のように肝要なもので、その主旨を体し、正課と相俟ちて知・徳・体に勉め励むよう訓示している。「進修」第壹号（明治33年1月発行）に載っている「進修会」会則（上の資料はその一部である）によれば、

- 會員は 特別會員・・・当校職員
- 贊助員・・・嘗ての当校職員
- 通常會員・・・当校生徒

部会は 雜誌部 學術の研究知識の交換と本會一般の記録及報道の機関とし、発刊する雜誌を進修と稱し、その誌面を分けて論說・雜録・文苑・雜報の四欄を設ける
演說討論部 知識の交換・弁舌の練磨を目的とする
体育部 心膽を練磨し身体を強健にするを目的とし、撃剣柔道部・野球遊技部の二科をおく（以下略）

などと会の目的や活動内容をしっかりと規定している。こうして組織化された進修会は、生徒の自治活動の拠り所となり、また土浦中学校の教育活動の一翼を担うまでに成長発展した。雑誌部は、そうした土浦中学校の活動状況を機関誌「進修」に収録し、発行を続けてきた。全49巻に及ぶ「進修」は、旧制土浦中学校の歴史を今に伝える貴重な資料となっている。

「進修」第壹号

開校3年度の明治33年1月、進修会雑誌部によって「進修」は創刊された。

国漢科教師名越時孝の手になる漢文体の序文に始まり、論説では特別會員の高野虎次郎の「美学と幸福」が巻頭を飾った。雑

「進修」創刊号表紙



録には「子午線の話」や「崎浜の横穴」（共に特別會員）、「小松の貝塚」（生徒）など当時としては新しい考古学に関する学術的な文章も見られる。文苑には紀行文や作文・伝記・和歌などが掲載されている。雑報には、明治30年から32年までの主な学校行事が列挙されている。進修会発会式、第九・十回茶話会、春季修学旅行、春季・秋季運動会、第一回演說討論会、入学試験、修業証書授与式、教員の異動等々が記載されている。

「進修」はこの第壹号発刊以降、昭和18年2月発刊の第四十六号まで続いたが、太平洋戦争の激化に伴う学徒動員や物資不足のため、休刊するに至った。戦後、昭和24年に復刊され、3号まで出されたがその後は廃刊となった。

戦後までを含め、全49巻が刊行されたわけだが、現在、本校で保管しているのは48巻である。第三十七号（昭和8・9年頃発行）のみが欠落している。何とも残念なことである。

ともあれ、進修会を核に、生徒たちが主体的に積み上げてきた数々の実績が堆積して、土中そして土浦一高の歴史と伝統が形作られてきたのである。

お願い
・「進修」第三十七号について、その所在等の情報をお持ちの方は、一高同窓会までご連絡ください。
・「Acanthus」第11号「一高同窓会ホームページ」に「掲載」してあります。